

平成30年度長崎県NPO・ボランティア活動推進協議会 会議結果

1. 日 時 平成30年8月6日（月）13:30～15:30
2. 場 所 長崎県庁3階311会議室
3. 出席者 （委 員）
佐藤会長、近藤委員、中田委員、村上委員、井石委員、鶴委員、藤澤委員、安永委員、綾部委員、中野委員
（事務局）県民生活部県民協働課
木村県民生活部長、松尾県民生活部次長（兼県民協働課長）、大塚総括課長補佐、小橋課長補佐、辰田係長、浦係長、原口主任主事、石丸主任主事
4. 議題
（1）平成29年度事業の実績等について
（2）平成30年度事業の実施状況等について
5. 会議結果
配付資料に基づき、各議題について事務局から説明を行った後、委員から質問、意見等をいただいた。

【主な委員意見・質疑応答】

議題（1）平成29年度事業の実績等について

[事務局説明]

- ・資料1 NPOと県がともに働くプロジェクト事業
- ・資料2 中間支援組織によるNPO組織力強化事業
- ・資料3 災害ボランティア関係

中野委員

「NPOと県がともに働くプロジェクト」について、市民参加型演劇活動による污水处理施設の啓発として、諫早市で演劇活動を一生懸命やっているが、今後、エヌケースリードリームプロ独自で継続していくのは困難なところもあるため、諫早市からの活動への助成はないのか。

事務局

諫早市としての污水处理に関する協働の部分については、市の方の予算措置は確認していない。

中野委員

県としても何らかの後押しはされるのか。

事務局

県の水環境対策課で、協働をすることで意識の向上やマンホールポンプの故障の縮減などにつながるといった成果を他の市町へも情報提供していきたいという話がある。諫早市に限らず、協働にかかる成果という部分を横展開して他の地域にも広げていきたい。県民協働課でも、こうした取り組みで効果がでてきているということをホームページ上で情報発信している。

藤澤委員

「中間支援組織による NPO 組織力強化事業」について、今年度以降、県内のコーディネーターの支援をどのようにしていくのか。また、実際、県内のコーディネーターが何人ぐらいいるのか。

事務局

支援員については、基本的に長崎市内の個人で中間支援を行っている、あるいは関心があって勉強したいという方に委嘱している。平成 29 年度は 3 名の方に委嘱していたが、平成 30 年度は委嘱の範囲をさらに広げて、なるべくたくさんの方に参加していただくため、現在 10 名ぐらいの方にお声掛けしている。平成 29 年度よりは多くの体制でより門戸を広げるところを意識している。支援コーディネーターは引き続き福岡市内の中間支援組織にお願いするが、支援員への支援スキルの伝達というところにも重きをおいて取り組んでいきたい。

中田委員

組織力強化事業について、平成 29 年度に支援を受けた 3 つの団体が、例えば一堂に会して、お互いの課題や支援内容を共有しあう機会があったか。

事務局

支援員側が支援内容を情報共有する場はあったが、支援を受けた側については、初年度は残念ながらそういう機会を設けられなかった。今は公表資料という形でホームページ等を通じての案内というところしかできていない。今後そのような機会がつかれないかということも検討したい。

中田委員

せっかくの機会を団体だけではもったいないので、共有して意見交換できる場を是非作っていただきたい。

井石委員

支援を受けた3法人はいろいろ課題があったが、ある程度納得し終わられたのか。その後の支援などはどうなるのか。

事務局

本事業での継続というのは難しいが、公益財団法人県民ボランティア振興基金に専門相談員派遣制度があるため、スポット的な支援で、継続して支援をしていく方法はある。

井石委員

是非継続をお願いしたい。

中野委員

この支援を受けた後に、理事などから、アンケートや生の感想を聞いているか。

事務局

6回目の支援が終わった後、県が支援団体にお邪魔し、今回の支援制度やコーディネーターに対する感想などの聴き取りを行っている。また、そのことを支援員等が集まったミーティングでも情報共有したうえで、今後の支援のあり方を検討した。

中野委員

生の声を聞きたかった。その声を活かして欲しい。

佐藤会長

「中間支援組織によるNPO組織力強化事業」については、支援する側と振り返りの中で、今後の改善点は何だったかっていうところを報告して欲しい。そうするとどういうふうに支援後の展開を進めていったらいいかといった議論ができる。NPOそのものをどう育てていくかという目的と、もう1つはそういう中間セクターとなる県内のNPOをどう育てるか。それをどう来年度以降どう改善していくかを議論できるようにしていきたい。

議題（2）平成30年度事業の実施状況等について

【事務局説明】

- ・資料4 つながるフェスタ in 県庁～NPO・じんけん・男女共同参画～
- ・資料5 新WEBシステム「ながさきボランぽネット」
- ・その他

中野委員

資料4の「つながるフェスタ in 県庁」について、県民協働課、男女参画・女性活躍推進室、人権・同和対策課が、どうして共催するのか。

事務局

1つは発信力の問題で、1つの課でやるよりも複数の課でやった方が強まる。もう1つは、県庁舎を利用しているイベントであるため、県民協働課だけのイベントでは集まる人も限られもったいなく、せっかくであれば一緒にやりたいということ。そうすることで、共同イベントとして周知等を図りたい。

中野委員

つながるフェスタということは、NPOやボランティア団体に関わっている課は地域づくり推進課など県庁の中に他にもある。そうした課が何でいないのか。

事務局

地域づくりや災害というテーマで分科会を開催予定のため、県民生活部以外の部局にも呼び掛けを行う。

佐藤会長

どことどうやって連携していくか、そういう意味では、もっと県民協働課がいろんな部局に首を突っ込んでみてもいいのでは。県民もそうだが、県庁内の協働も少し考えてほしい。

事務局

いろいろな情報を発信して、関係のないような方も来られる中、そういう方が話を聞いたりのぞいたりして、「ああなるほどね」と、自分も実はつながっているんだという意識をもっていただく。そこでつかんだ情報や刺激を持ち帰って、地域の中で、また自分の活動の中で消化をしていただく。そういう形になればと思い、できるだけたくさんの方に集まっていただきたい。

佐藤会長

是非、今年3課(室)でやるのだったら来年は5つ。県庁を使わないのがもったいないっていうことなら全部使えばいい。目標は高いところに持って、それを目指してがんばっていく、協働というのはそういうところに持っていかないと広がっていかない。

中田委員

人権や男女のフェスタを、今回全部一本化して同じ日にやるというのはいいが、いっぺんにやることで薄まらないかという気持ちもある。初めてなので是非成功して、今まであまり関心が無かった人も、同じ会場に巻き込まれて、他のところをのぞいてみようということになればいいし、いろいろな県庁の部局の方にも、引っかかるような仕掛けを希望する。部局横断的な意識を持ちながら、こういうイベントを続けていただきたい。

佐藤会長

「NPO と県がともに働くプロジェクト」は、フォローアップをどうしていくかがすごく重要な部分だと思う。災害ボランティアは、全国的にこれだけ集中豪雨が発生し、長崎でも過去にそういう災害が起きて、県内で起きた災害に対してどうしていくのかをもう少しクリアに見える形にしていく必要がある。ポータルサイトが4月から運用され、使い勝手というのは、とりあえず年末ぐらいで1回ヒアリングされた方がいいのでは。情報提供する側のヒアリングと使った方の意見を見ていく。こういうものは1回作ったら終わりではなくて、ブラッシュアップをかけていかないといけない。